



ニュースレター

神奈川県臨床細胞学会

第36号 令和3年7月20日発行

第38回神奈川県臨床細胞学会学術集会を終えて

横浜南共済病院 病理診断科 仲村 武

令和元年10月12日、台風19号が関東地方直撃のため、第38回神奈川県臨床細胞学会学術集会は会員の皆様の安全を第一に考え延期と致しました。学術集会延期にあたり、座長・講演者をはじめ会場の確保・日程調整などをどうしたらいいのか困惑していたところ、がんセンターの酒井様、聖マリアンナ医科大学の島田様より会場を提供できるとお電話を頂き、とても嬉しく思ったのを覚えています。多くの方々の御協力により11月23日がんセンター講堂で開催することができました。日程を変更したにも関わらず、抄録通りに一般演題10題、教育講演の清水 哲先生、教育セミナーの松本 慎二氏、皆様に発表・講演して頂くことができました。また、岡山で開催されました日本臨床細胞学会秋期大会の一週間後にも拘わらず、160名もの出席を得て盛会裏に終えることができました。

一般演題では症例9例、検討報告1例が発表され、活発に討議がされとても内容の濃い演題発表となりました。教育講演では乳腺外科医として40年にわたり活躍されています清水先生に「乳癌の診断と治療 40年の変遷」と題して講演頂きました。乳癌の治療は乳房切除術から乳房温存へと大きく様変わりし、最近では乳腺穿刺吸引細胞診に代わり、ERやPgR、Her2が評価できる針生検へと移行しています。その流れに合わせて細胞診も副病変や腋窩リンパ節の評価へと変わっています。乳腺細胞診は減少傾向ですが、その細胞像を探求し診断精度を常に維持していく必要があります。

教育セミナーでは松本慎二氏による「悪性胸膜中皮腫診断における胸水細胞診の診断プロセスと注意点」の演題で細胞像に加えて、p16 遺伝子ホモ接合性欠失の同定やBAP1蛋白の核内発現欠失が悪性中皮腫の診断精度の向上に大きく貢献することを講演して頂きました。

今回、学術集会の日程が台風の影響により変更になったにも拘わらず、無事に終えることができました。演題発表者の皆様、講演者の先生方、座長の先生方、運営スタッフの皆様に御協力頂き改めて深く御礼申し上げます。

ニュースレターは神奈川県臨床細胞学会 広報委員会が作成しています。